

# 新庁舎の計画を起点に、市民活動の輪を伊佐市のまちづくり全体に拡げる ~老若男女が協働し、新たな「まちの核」をつくる

## コンセプト3 時間をかけてまちをつくり続ける

本敷地は古くより鉄道駅前として栄え、伊佐市の歴史、文化を発信する拠点に相応しい場所です。大口ふれあいセンターと有機的に接続される新庁舎が加わり、これからここを訪れる大勢の子ども、大人、高齢者、老若男女問わず多くの市民が長い時間をかけて豊かな交流を築き上げていく契機となるよう専門家としてお手伝いをします。また、市民の活動の輪がまち全体に発展し、伊佐市のまちづくりの拠点とする仕組みを、庁舎建設のプロジェクトを通じ市民の皆様と一緒に作り上げていきたいと思ひます。

【5-1-1 道路交通網を生かした交通の拠点としての整備】

### 01 時間を楽しむ空間づくり

- ・バス・乗合タクシーなどを待つ時間も、皆で顔を合わせ、楽しく過ごせるコミュニティバスストップを提案します。
- ・バス停の他、公園・庁舎ホール・議会棟など、施設内の主要な場所でバスの到着予定が確認できる情報システムを提案します。



バスストップイメージ

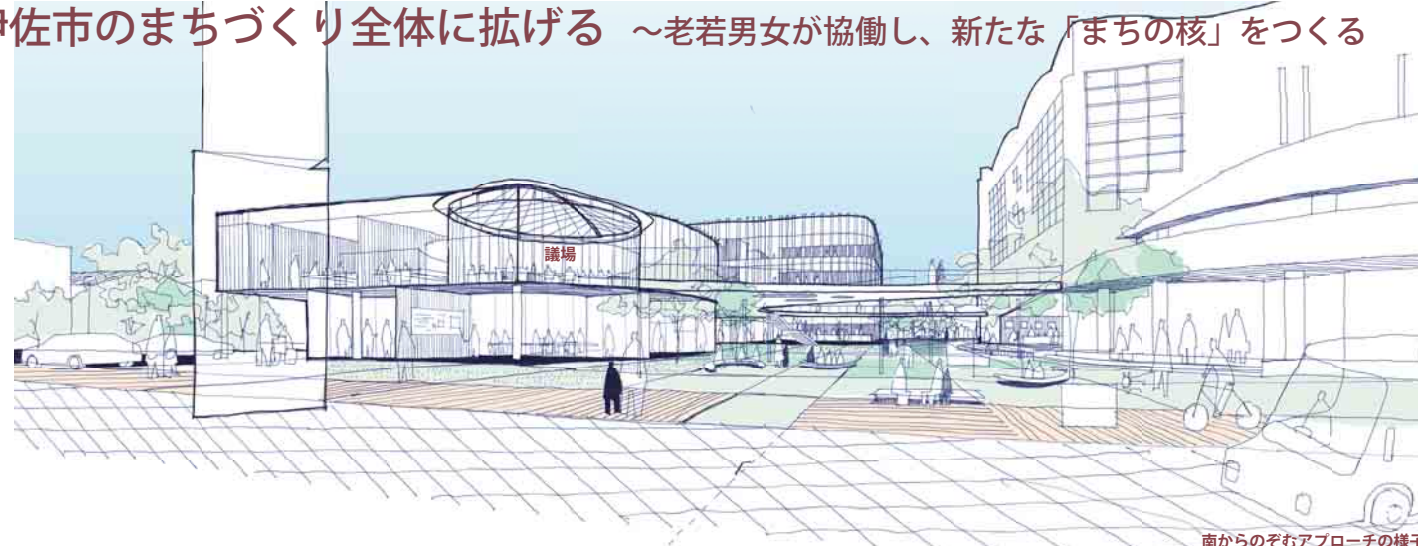


情報掲示板イメージ

【5-1-2 既存公共施設・周辺市有地との一体的活性化】

### 02 既存施設を活かしつつ改修して、一体化して活用する

- ・ふれあいセンターは部分的な改修を行い、新庁舎に求められる倉庫・書庫機能の一部としての利用を検討します。ふれあいセンターは庁舎よりも先に更新時期を迎える為、将来的な解体・移転・庁舎との一体増築など、さまざまな可能性を見据えた配置計画とします。
- ・移設した倉庫・書庫機能のスペースが利用できなくなるケースを考慮し、庁舎ではペーパーレス化を進めるシステムの導入検討も行います。
- ・現状、既存不適格・修繕が必要な箇所は、機能性・合理性を重視し、計画に取り組みます。



南からのぞむアプローチの様子

- ・スクウェア広場とモニュメントは、可能な限り改修を行って残す計画とします。これまで培ってきた歴史の継承と新庁舎建設による新たなまちづくり・地域発展のシンボルとして、これまで以上に市民に親しまれる空間となるよう整備します。また公園と繋がりを持たせ、一体的なイベント利用ができるよう計画します。

### 03 市民や地域と一体となって施設周辺を活性化

- ・近隣や伊佐市内の飲食店の皆様がキッチンカーで出店出来る場所と設備を公園内に設けます。ランチ時には市民・庁舎職員の皆様に賑わうグルメスペースを提案します。
- ・伊佐市内に複数ある酒造会社とコラボレーションしたイベントなど、公園を利用したフードホールイベントを計画することで、日中だけでなく夜の賑わいも期待できます。
- ・「薪を燃やして地域を熱くする」を合言葉に、移住希望者の皆様に歓迎するイベント開催も可能な焚火スペースも検討します。

- ・新庁舎の外観は、周辺の施設・環境との調和に努めます。ふれあいセンターの外装、モニュメントとの調和などを考慮した色調、これまでの風景を壊さない建物のボリューム感に配慮します。
- ・誰もが利用しやすく、これからの伊佐市を支える、やさしい子どもたちを育てる「やさしい〜さ公園」を庁舎と一体的に整備致します。

【5-1-3 地域産材の活用と地域産業の活性化】

### 04 郷土の人・材・産業が力を合わせてつくる庁舎

- ・伊佐市の市木であり、市内でスギに次ぐ主要産出材であるヒノキを構造材・装飾材として利用します。建設に使用する伊佐ヒノキ伐採時はワークショップを行い、地域の皆様にも伊佐ヒノキに親しみをもってもらい機会を設けます。
- ・また竣工後には伊佐木材のショールームとしてその良さを広く発信できる施設となるよう計画します。



伐採・製材などを見学する体験

- ・議会棟屋根は、伊佐ヒノキを利用した木架構の大空間を計画します。木材利用の際に課題となる木材の伐採・乾燥・加工時間を確保するために、庁舎と議会棟を分棟とし、設計完了後の準備期間を設けることを可能とします。



木架構の議場屋根

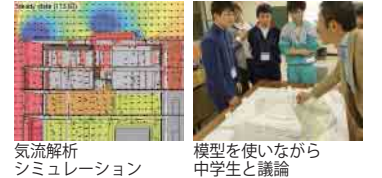
- ・庁舎を分棟で計画することで、工事発注区分を明確に分ける事が可能になります。また同時に各棟の工事が進められ全体の工期の短縮も可能となります。複数の施工業者を選定することで、より多くの地元業者が施工に携わって頂くことができます。

【5-1-4 市民参加型の新庁舎づくり】

### 05 市民との対話を通して市民に愛される庁舎をつくる

- ・今までのワークショップ内容を基に課題を洗い出し、伊佐市のためにカスタムメイドしたワークショップを開催いたします。市の未来を担う子ども、市内で活動するアーティスト、地元企業経営者など、様々なグルーピングのワークショップを行うことで、色々な角度の意見を集め、庁舎づくりに活かします。

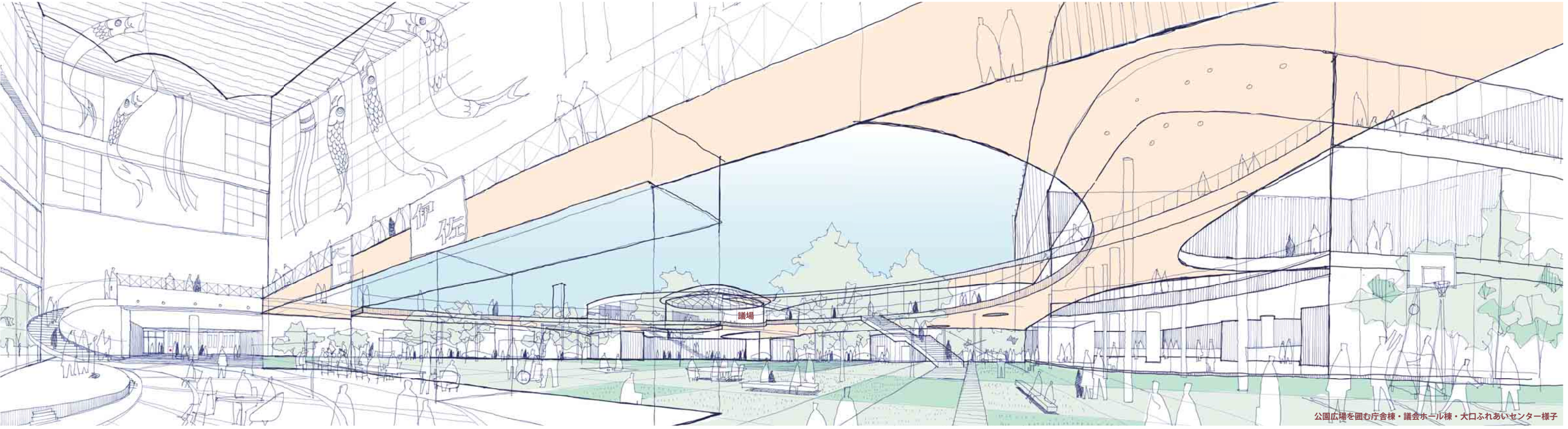
- ・直接の対話を重視し、経験に基づく定量的データや最新技術を用いた比較検討、模型やCGなどによる分かりやすい説明で意思疎通を図ります。



気流解析シミュレーション

模型を使いながら中学生と議論

- ・職員が働きやすい環境を実現するために、窓口や執務室・会議室、防災や情報、セキュリティ等に係る職員ワークショップの内容を的確に反映します。
- ・市民ワークショップの内容や設計内容の決定プロセスなどをホームページや模型展示などにより開示し、広く周知していきます。プロセスを共有することで「みんなで育てる街並み・庁舎」を目指したいと考えています。



公園広場を囲む庁舎棟・議会ホール棟・大口ふれあいセンターの様子